

GTEC for STUDENTS Can-do Statements の妥当性検証研究概観  
A General Review of Validation Studies of GTEC for STUDENTS Can-do  
Statements

根岸雅史

Masashi NEGISHI

東京外国語大学

*Tokyo University of Foreign Studies*

**Abstract**

The purpose of this paper is threefold: to explain the development process of the GTEC for STUDENTS Can-do Statements, to relate the Can-do Statements to the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR), and to validate the Can-do Statements by comparing them with high school students' actual performance on certain tasks. Each student was evaluated based on their ability to perform tasks such as reading the newspaper, writing emails and conversing over the phone, all of which are important descriptors from the GTEC for STUDENTS Can-do Statements. Also, if a student participated in a homestay program, they were asked to keep a "can-do journal", which was later evaluated. Based on the findings of this study, modifications to the GTEC for STUDENTS Can-do Statements, and plans for future test development, were proposed.

**Keywords**

Can-do Statements, real life performance, test, CEFR

**1. GTEC for STUDENTS における Can-do Statements の開発**

**1.1 開発の動機**

本稿では、GTEC for STUDENTS における Can-do Statements 開発のプロセスとその妥当性の検証結果について報告する。この Can-do Statements が開発されたのは、高校生のための外国語としての英語熟達度テストである GTEC for STUDENTS (ベネッセコーポレーション) のテスト結果のフィードバック機能の向上のためである。日本におけるほとんどのテストは、その結果のフィードバックは「得点」「偏差値」「合否」などによっている。しかしながら、これらのフィードバックでは、受験者の相対的な「でき具合」を知ることはできても、その受験者が英語で具体的に何ができるのかについての情報を提供してこなかった。こうした問題点を克服するために、GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は開発されることになった。今日では、Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) (Council of Europe, 2001) などの Can-do Statements を中心とした言語能力記述の枠組みが提案・使用されているが、ここで報告する GTEC for STUDENTS の Can-do Statements はこれらの枠組みとは全く独立に作られ

てきたものである。

## 1.2 開発のプロセス

GTEC for STUDENTS の Can-do Statements 開発のプロセスは、以下の通りである。

- ① **ブ레인・ストーミング**: 現実の生活の中で英語を使って日本の高校生が何をしているかを知るために、高校時代に留学経験のある大学生を集めて、項目を洗い出した。これらの項目をもとに、さらに必要と思われる項目を追加した。
- ② **Can-do アンケート項目の作成**: ①の結果をもとにアンケート項目を作成した。アンケートでは、まず、経験を問い、次に、経験のある被験者に「できる・できない」を尋ねている。

表 1. Can-do アンケート項目の例

<b>Category B: Question 37) Writing postcards and greeting cards in English</b>	
1.	I have never written cards or postcards in English.
2.	I can write simple messages in English.
3.	I can express myself to some degree using written English.
4.	I can write most of what I want to express using English.

- ③ **Can-do アンケートと GTEC for STUDENTS の実施**: GTEC for STUDENTS はスコアを元にしたグレード (G1-G6) が、技能ごとにフィードバックされるが、各技能のグレードに対応した Can-do Statements を作成するために、テスト受験者にアンケートに回答してもらった。
- ④ **Can-do アンケートと GTEC for STUDENTS のグレードとの関係分析**: アンケート項目ごとに GTEC for STUDENTS の各グレードでの「できる」と「できない」の比率をグラフ化した。
- ⑤ **GTEC for STUDENTS のグレードに関連付けられた Can-do Statements の作成**: 基本的には「できる」の比率が「できない」の比率を超えたところのグレードをその Can-do 項目の遂行が可能となるグレードと判断し、これをもとにグレードに対応した Can-do Statements を作成した。以下が、その Can-do Statements の例である。

表 2. GTEC for STUDENTS Listening Can-do Statements の例

Grade	Listening Can-do Statements
6	I can generally understand the outlines of the radio and TV news. I can understand the main plots of films without subtitles, though there are some lines I can't get.
2	I can recognize the topics of radio and TV news. I can understand some lines in films with subtitles.

表 3. GTEC for STUDENTS Reading Can-do Statements の例

Grade	Reading Can-do Statements
6	I can understand the outlines of textbooks and paperbacks in English. I can understand most of the Web pages on the Internet.
2	I can understand articles of personal interest in English magazines or newspapers with notes such as <i>Student Times</i> without using dictionaries.

これとは別に、テストの項目難易度をもとに、それぞれのグレードで解答可能となるテスト項目の特性の分析を行い、Proficiency Guidelines というものを作成した。以下が、その Proficiency Guidelines の例である。ここでは、テスト項目が測定していると思われる能力特性を記述しているために、その記述はテストで測定している能力に限定されることになる。

表 4. Reading Grade Level と GTEC for STUDENTS Proficiency Guidelines

230 and above	6	Can understand the main idea of a text passage, and can find information that is difficult to search for. / Can understand upper level senior high school vocabulary. / Can read an English text accurately at an appropriate speed.
120~139	2	Comprehension of a text's overall meaning and ability to search for information is inadequate. / Can understand lower level senior high school vocabulary. / Reading speed is slow, and there are frequent misunderstandings about the meaning of text passages.

## 2. GTEC for STUDENTS Can-do Statements と CEFR との関連性の検証

GTEC for STUDENTS Can-do Statements を、これとは全く独立して開発され、今日のヨーロッパの共通枠組みとして用いられている CEFR と比較することで、その共通性とそれぞれの独自性を見てみた。以下は、共通性が見られた descriptors の例であるが、対応すると思われる部分はイタリック体になっている。

表 5. GTEC for STUDENTS Can-do Statements と CEFR の対応する descriptors の例

GTEC for STUDENTS Proficiency Guidelines Listening-2
Can respond to spoken prompts with <i>straightforward and somewhat unvaried expressions</i> .
Corresponding CEFR OI (Oral Interaction)-A2 descriptor
I can communicate in simple and routine tasks requiring <i>a simple and direct exchange of information</i> on familiar topics and activities.

GTEC for STUDENTS Can-do Statements Listening-6
I can generally understand the outlines of the radio and <i>TV news</i> . I can understand the main plots of <i>films</i> without subtitles, though there are some lines I can't get.
Corresponding CEFR Listening-C1 descriptor
I can understand <i>television programmes and films</i> without too much effort.

GTEC for STUDENTS Can-do Statements Reading-Upper 1
I can understand simple English messages of <i>birthday cards or Christmas cards</i> . I can read most of the menus in fast-food restaurants.
Corresponding CEFR Reading-A2 descriptor
I can read <i>very short, simple texts</i> . I can find specific, predictable information in simple everyday material such as advertisements, prospectuses, menus and timetables and I can understand <i>short simple personal letters</i> .

こうした対応関係の確認を包括的に行い、GTEC for STUDENTS の Proficiency Guidelines / Can-do Statements の CEFR のレベルとの対応関係を確立した(表 6 参照)。この表では、一部欠けていたり重なったりしているところがあるが、順番として前後しているところはない。こうしたことから、GTEC と CEFR との間には、十分な対応関係があると判断することができる。さらに詳しく見てみると、リスニングでは、CEFR の A1 は GTEC では Lower 1 と Upper 1 に分かれていたり、リーディングでは、CEFR の A2 と B1 の間に、GTEC ではグレード2が入っていたりしており、下位のレベルが細分されていることがわかる。

表 6. GTEC for STUDENTS グレードと CEFR のレベルの関係

**[Listening]**

CEFR	A1	A1	A2	B1	B1	B2	C1
GTEC	Lower 1	Upper 1	2	3	4	5	6

**[Reading]**

CEFR	A1	A2		B1	B1	B2	C1
GTEC	Lower 1	Upper 1	2	3	4	5	6

ただし、それぞれの枠組みに固有の特性があることが明らかになった。CEFR については、次の通りである。

- CEFR には文法への言及がない。これは CEFR がヨーロッパの言語共通枠組みであるために、特定の言語の文法といった観点からの記述がないのは当然である。
- CEFR には特定の新聞やラジオ番組などへの言及がない。CEFR は、ヨーロッパの言語共通枠組みであるために、特定の地域に基づく情報を盛り込むことはできない。この意味では、日本などの特定の地域のための枠組みといった場合は、積極的にこういった情報を盛り込み、枠組みの利用者への利便性を高めた方がいいだろう。

- ・ CEFR-Reading には読解速度やスキミングへの言及が(ほとんど)ない。CEFR-Reading では、読むことの速度やスキミングといった読みのスキルに関しての記述がない。読解速度に関しては、GTEC for STUDENTS では、別途学習者のデータをとって記述を加えてきた経緯がある。「読解速度」は、リーディングの能力においては、「理解力」と並ぶ重要な柱であると考えられており、能力の記述に含めることは意義があると思われる。また、スキミングは、GTEC for STUDENTS-Reading においては、テスト・スペックに明確に位置づけられており、これを反映した形で、能力記述にも入っているが、こうした観点も今後 CEFR に盛り込まれてもいいだろう。
- ・ CEFR-Reading には辞書使用への言及がない。CEFR-Reading における能力記述では、辞書を使つてのパフォーマンスを前提としていないと思われる。しかしながら、外国語学習者としては、新聞などを読むような場合でさえ、辞書使用をまったく排除することは現実的ではないだろう。ただし、辞書使用の可能性を含めることは、その使用の程度に学習者間で大きな差があると考えられるために、パフォーマンスの安定性を下げることになるものと思われる。
- ・ CEFR は「大人向けの記述」である。Keddlé (2004: 50) の指摘するように、そのトーンは大人向けであり、教室場面との関連性は低いように思われる。したがって、外国語として英語を用いている日本においては、教室場面との関連性が見えてくるような能力記述を盛り込むことが求められるかもしれない。

これに対して、GTEC for STUDENTS の特性は、次の通りである。

- ・ GTEC for STUDENTS-Listening には方言の理解などへの言及がない。GTEC for STUDENTS のような熟達度テストにおけるリスニング・テストにおいては、方言などが含まれたリスニング・テスト項目というものは、ほとんどなかったのではないか。これは、まずリスニング・テストの作成に当っては、基本的に「標準的な英語話者」が選択されてきたと思われる。しかしながら、今後のテスト開発においては、難易度の高いリスニングのテスト項目の作成に当たり、方言を含んだ英語の聞き取りということも考えられてもよいかもかもしれない。
- ・ GTEC for STUDENTS-Listening には速さや明瞭さへの言及がない。これも、GTEC for STUDENTS に限ったことではないが、従来の熟達度テストにおけるリスニング・テストにおいては、一般に音声の収録では、ほぼ均一のスピードがこれまで保持されてきた。また、不明瞭な発音というものも避けられてきたと言える。万が一不明瞭に発音されてしまった場合は、収録のし直しがなされてきているはずである。しかしながら、今後のテスト開発においては、難易度の高いリスニングのテスト項目の作成に当たり、発話速度や明瞭さの調整をするという可能性もあるだろう。

### 3. GTEC for STUDENTS における Can-do Statements の妥当性の検証

GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は、今日の代表的な言語能力記述の枠組みである CEFR と照らしても、十分な対応関係があり、また、日本人の高校生にとって必要と思われる下位のレベルの記述が細かく分かれていることがわかった。ただし、上述したとおり、Can-do Statements のもとになっているデータは、アンケートの結果であり、これはいわば自己申告に基

づくものである。確かに、GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は、経験した結果を「できた」のか「できなかった」のかについて報告させてはいるが、実際のパフォーマンスに基づいて判断したわけではない。そこで、本調査では、GTEC for STUDENTS の Can-do Statements の精度をさらに高めるために、これらのうち代表的なものについて実際のパフォーマンスを調査してみることにした。

ついでながら、この点は、経験の有無を問題としない自己判断をもとにした Can-do Statements や教師などの第三者による判断をもとにしたものとも異なる。日本人高校生の場合は、英語を使つての実際のコミュニケーションの経験が非常に限定されていることはわかっているが(吉田他, 2004)、こうした状況では、経験に基づかない自己申告による Can-do Statements には、高い信頼性は望めないだろう。また、教室で教える教師なども、現実のコミュニケーション場面で学習者がどの程度タスクが遂行できるかの判断は難しいといわれている。

技能別の調査としては、「リーディング:英字新聞調査」、「ライティング:電子メール調査」、「スピーキング:電話調査」である。また、特定の項目に限定されずに概観的に調査したものとして「海外ジャーナル調査」がある。これらのうち、「リーディング:英字新聞調査」と「ライティング:電子メール調査」については、詳細は本号の吉池(2006)および工藤(2006)に収録されているために、そちらを参照されたい。「リーディング:英字新聞調査」、「ライティング:電子メール調査」、「スピーキング:電話調査」では、まずそれぞれのパフォーマンスに関する Can-do アンケートを実施し、そのあとで実際のパフォーマンスを直接調査した。「ライティング:電子メール調査」と「スピーキング:電話調査」では、実際に電子メールを書かせたり、電話で話させたりした。それに対して、「リーディング:英字新聞調査」では、受容技能のパフォーマンスを見なければならぬ。そのために、なるべくそれぞれの新聞記事を読んだときに行うと考えられるタスクを作成して、そのタスク遂行の成否を見た。

「海外ジャーナル調査」は、近年多くの高等学校で行われるようになってきた海外ホームステイ・プログラムを対象としたものである。この調査に当たっては、ホームステイ期間中に英語で何をやろうとして、その結果がどうであったかを毎日記録してもらうためのジャーナルを作成した。調査対象となった高校生は、このジャーナルを持って渡航し、毎日記録していった。帰国後これを回収し、その結果を分析した。この調査では、「リーディング:英字新聞調査」、「ライティング:電子メール調査」、「スピーキング:電話調査」よりさらに1歩進めて、海外の実際のコミュニケーション場面でのパフォーマンスを報告してもらったことになる。

#### (1) リーディング: 英字新聞調査

この調査では、実際の英字新聞記事を読ませて、その結果と Can-do アンケートの結果をつきあわせることを行った。その結果、次のようなことが分かった。

- ・ 経験のある学習者や能力の高い学習者の自己評価は信頼性が高い。
- ・ 能力の低い学習者でも読める英字新聞の記事がある。
- ・ 身近なトピックについての一般的な記事を読めるにはグレード5・6が必要。

#### (2) ライティング: 電子メール調査

この調査では、実際英語で電子メールを書かせて、その結果と Can-do アンケートの結果をつ

きあわせることを行った。その結果、次のようなことが分かった。

- ・ ある程度のライティング力があれば、通じる電子メールは書くことができる。
- ・ エッセイを書く能力と電子メールを書く能力には異なった能力が関わっている。
- ・ 電子メールの評価基準が新たに必要である。

### (3) スピーキング：電話調査

この調査では、実際に英語で電話をかけさせて、その結果と Can-do アンケートの結果をつきあわせることを行った。その結果、次のようなことが分かった。

- ・ ほとんどの被験者は電話でのある程度の課題遂行が可能であった。
- ・ 電話でのスピーキング能力の評価基準としては、単に「できる・できない」という二分法的な判断だけでなく、どの程度「うまく」できるのかという段階的な判断が必要だと思われる。

### (4) 海外ジャーナル調査

この調査では、オーストラリアのホームステイ・プログラムに参加した高校生に、その日に英語でどのようなことをやって、その結果がどうであったかをジャーナルに記録してもらった。そのジャーナルを分析した結果、次のようなことが分かった。

- ・ 問題解決場面に直面すると、ある程度のことはできてしまう。
- ・ 問題解決（「できる」「できない」という基準以外に、どの程度「うまく」解決できるかという基準を導入すべきかもしれない）。
- ・ 同じ言語能力でも、「経験値」が上がると「できること」が増えていく。
- ・ 「自己評価」だけでなく、「他者評価」を入れる必要がある。

これらの調査から得られた興味深い結論としては、「経験値の高い学習者」や「能力の高い学習者」の自己申告は信頼できるという点がある。日本人英語学習者は、コミュニケーションの実際の経験が少ないために、Can-do Statements のためのデータ収集に際しては、注意が必要であろう。とりわけ英語能力の下位の学習者は、「できること」も少ないだけでなく、経験値も上位者に比べてはるかに低いのである。

また、GTEC for STUDENTS のような特定のテストのスコアと Can-do Statements を関連付ける場合、そのテストが測っている能力のディメンションと特定の Can-do Statements のディメンションが異なっている場合は、関連づけが難しいことがわかった。たとえば、エッセイ・ライティングに基づく GTEC for STUDENTS のライティング・スコアに、電子メールのパフォーマンス・レベルを関連づけることは難しいかもしれない。同様のことは、モノローグに基づくスピーキング・テストのスコアに、インタラクションである電話のパフォーマンスを関連づけることは難しいということになるのかもしれない。これに対して、GTEC for STUDENTS のリーディング・テストのディメンションは、英字新聞のリーディングのパフォーマンスのディメンションと合っているようである。一般的な傾向として、多数のテスト項目からなるテストは、パフォーマンスとの関連づけがしやすいのかもしれない。その意味では、今回の調査には含まれなかったリスニング・テストとパフォーマンスとの関連づけの可能性も高いものと思われる。

## 参考文献

- Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- . 2003. *Relating Language Examinations to the Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment* (CEF). Manual: Preliminary Pilot Version. DGIV/EDU/LANG 2003, 5. Strasbourg: Cambridge University Press.
- Kedde, J. S. 2004. "The CEF and the secondary school syllabus" *Insights from the Common European Framework*. Morrow (ed.). 2004. 43-54.
- Morrow, K. (ed.). 2004. *Insights from the Common European Framework*. Oxford: Oxford University Press.
- 吉田研作, 渡部良典, 根岸雅史, 長沼君主, ベネッセコーポレーション国際教育事業部 (2004) 「学生 CAN-DO/英語教員意識調査から見た日本, 韓国, 中国英語教育の現状と今後の課題」 In Benesse Corporation. (Ed.), 『東アジア高校英語教育 GTEC 調査: 指導と成果の検証』 (pp. 27-60). ベネッセコーポレーション.